

令和7年度 浅口市立金光竹小学校 学校評価書

校長 在間 恭子

【 浅口市教育目標 】	【 金光地区学校運営協議会のめざす子ども像 】	学級数	6学級	児童数	48人
	広い視野と思いやりの心をもった、心身ともに元気で明るく前向きな子「自己肯定感・自己効力感」「郷土愛」「あいさつ」	職員数	19人	家庭数	31戸
	【 本校教育目標 】	学校運営協議会委員			
郷土あさくちを愛し、 心豊かに たくましく、 未来を拓く人づくり	思いやりの心をもち、自ら考え、 たくましく生きる児童を育てる				

A成果をあげている<80%以上の達成> Bほぼ成果をあげている<60~80%の達成> Cあまり成果をあげていない<40~60%の達成> D成果をあげていない<40%未満の達成>

	重点目標	単年度目標	具体的計画・達成基準	自己評価	評価
1	わかりあう子 互いを認め合う思いやりの心の育成	【自己肯定感・自己効力感】 友達のよさを見つける活動を推進することで、互いを認め合う思いやりの心を育成する。	◆よいこと見つけの取組を推進する。 <各学級>友達のよいこと発表(帰りの会等) <全校>カード(ふわふわの実)に記入 ・校内放送と掲示 ・児童による紹介と管理職による紹介 ◆2学期末の児童調査で「自分にはよいところがあると思う」肯定的回答(R7当初39人) 41人以上A, 40人以上B, 39人以下C, 38人以下D	・よいところ見つけの取組を、学級や学校全体で継続している。特に学校全体で取り組んでいる「ふわふわの実」の紹介を児童会からも行った。 ・掃除を頑張っている児童を放送で紹介したり、表彰したりする取組を清掃担当者が中心となって行った。 ◆「自分にはよいところがあると思う」児童の肯定的回答 (R7当初)39人→(7月)34人→(12月)38人	B
2	かんがえる子 思考力, 判断力, 豊かな表現力の育成	基礎学力の定着を図り, 主体的に学ぶ態度を育成する授業づくりにより, 確かな学力の向上を図る。	◆校内研究を核とした算数科授業の充実 ・レディネステストによる実態把握 ・具体的なめあての提示 ・主体的に考える場, 考えを表現し交流する場の設定 ・適用題の時間確保(タイムマネジメント) ◆2学期末の児童調査で「進んで考え, 表現している」肯定的回答(R7当初:89.6%) 95%以上A, 91%以上B, 90%以下C, 85%以下D	・算数科の校内研究に取り組み授業改善を図った。 ・特に「表現すること」に重点を置き, ステップアップ表を児童と共有し授業で活用することで表現力の向上を図った。 ◆「進んで考え, 表現している」児童の肯定的回答 (R7当初)89.6%→(7月)92.7%→(12月)93.6%	B
3		タブレットを学習のツールとして活用し, 主体的に考え, 表現する力を育成する。	◆思考, 表現, 交流の場で, 端末を積極的に活用する。 ◆2期末の児童調査で「調べる」「考えの交流」「発表」での活用を週3回以上行っている児童平均(R7当初:26.0%) 50%以上A, 27%以上B, 26%以下C, 20%以下D	・情報化認定の申請に向けて, 端末活用の日々の取組を評価・改善した。 ・積極的活用が効果的活用にもつながっている。 ◆「調べる」「考えの交流」「発表」で端末活用週3回以上行っている児童平均 (R7当初)26.0%→(7月)47.2%→(12月)63.8%	A
4	たすけあう子 思いやりの心や勤労・奉仕の精神の育成	【郷土愛】 地域学習に積極的に取り組み, 地域への関心を高め, 郷土を愛する心を育成する。	◆地域とのつながりの中で学ぶ場の設定 ・地域資源を使った生活科, 総合的な学習等の充実 ・地域人材を招いての学習活動の充実 ◆2学期末の児童調査で「地域(金光)や社会をよくするために, 何かしてみたいと思う」肯定的回答(R6:39人) 41人以上A, 40人以上B, 39人以下C, 38人以下D	・各学級で, 地域資源や地域の方とつながる学習に取り組んでいる。地域とつながるよさに気づけるよう, 振り返りやお礼の手紙など, 事後活動を大切にしている。 ◆「地域(金光)や社会をよくするために, 何かしてみたいと思う」児童の肯定的回答 (R6)39人→(R7)41人	A
5		【あいさつ】 進んであいさつをすることで, 人とのつながりを大切にしようとする態度を育成する。	◆月目標での取組 ・取組期間を各学期始めに設定 ・児童の実態に合わせた週目標の設定 ・教職員による積極的な称揚 ・保護者, 地域との取組共有(学校便り) ◆2学期末の児童調査で「場に応じたあいさつを進んでいる」肯定的回答(R6:45人) 47人以上A, 46人以上B, 45人以下C, 44人以下D	・高学年児童が毎週1回にあいさつ運動を行った。 ・あいさつのよさが書かれている「ふわふわの実」を積極的に紹介した。 ・各学期始めの重点取組とともに, あいさつレベル表を提示し, 児童の意識の高揚を図った。 ◆「場に応じたあいさつを進んでいる」児童の肯定的回答 (R6)45人→(R7)46人	B
6	けんこうな子 しなやかでたくましい心と体の育成	体育の授業, 業間運動, 交流遊び等で意欲的に体を動かすことで, 楽しみながら体力向上を図る。	◆運動による達成感や楽しさを実感できる場の工夫 ・体育の授業での具体的目標の設定 ・仲間とともに楽しむ運動(遊び)の推進 ◆2学期末の児童調査で「体を動かすことは楽しい」肯定的回答(R6:43人) 45人以上A, 44人以上B, 43人以下C, 42人以下D	・全校遊びや県のチャレンジランキングに積極的に参加し, 運動する楽しさを味わっている。 ・個の伸びを大切に声掛けをしながら学習を進めている。 ◆「体を動かすことは楽しい」児童の肯定的回答 (R6)43人→(R7)46人	A
7	開かれた学校づくりの推進	学校の意図や思いが伝わる情報発信をすることで, 信頼される学校づくりに努める。	◆ブログや学校便り等での情報発信に努める。 ・児童の様子の発信 ・学校の取組等の周知 ◆2学期末の保護者調査で「学校は家庭や地域の思いや願いを反映した学校経営をしている」肯定的回答(R6:20世帯90.9%) 95%以上A, 91%以上B, 90%以下C, 85%以下D	・ブログや学校便りで児童が前向きに取り組む様子を積極的に発信した。 ・保護者の意見に対する検討や回答を早急に行うなど保護者の声を学校経営に生かしている。 ◆「学校は家庭や地域の思いや願いを反映した学校経営をしている」保護者の肯定的回答 (R6)20世帯90.9%→(R7)27世帯96%	A
8	力を発揮できる教職員組織づくり	日々の取組や研修等により一人一人の資質向上を図るとともに, 協働して課題を解決することで組織力の向上を図る。	◆児童の状況や取組の方向性を共有し, 組織として取組を推進する。 ・金光学舎のめざす子ども像の共有 ・校内での研究, 研修の充実 ◆2学期末の教職員調査「子ども一人一人が自己肯定感・自己効力感もてるように工夫して指導している」で「当てはまる」と回答(R6:67%) 70%以上A, 68%以上B, 67%以下C, 60%以下D	・生徒指導や行事など, 対応や取組の方向性を職員間で共有し, 組織として取り組んだ。 ・よいところを見つける取組を学校全体で推奨して取り組んだ。 ◆「子ども一人一人が自己肯定感・自己効力感もてるように工夫して指導している」教職員の「当てはまる」と回答した割合 (R6)67%→(R7)23%	B

分析・改善方策

【金光学舎 めざす児童像について】

◆自己肯定感・自己効力感(1, 8)

<分析>

・「自分によいところがある」と感じていない児童が一定数いる。肯定的回答の人数は39人から38人と減少しているが、否定的回答の内、「当てはまらない」と回答した児童は(年度当初)3人→(7月)8人→(12月)1人と減少傾向にある。7月の調査を受けて、否定的回答をした児童名を教員間で共有し、2学期以降のかかわりに生かした成果だと考える。

・「子ども一人一人が自己肯定感・自己効力感がもてるように工夫して指導している」の問いに「当てはまる」と回答した教職員の割合が、(R6)67%→(R7)23%と大きく減少したが、管理職として教職員が子どもたちに関わる様子を見ているが、大きな変化はないと感じている。

<改善方策>

・次年度も、授業などで児童が主体的に活動でき、達成感を得られる場面を積極的に取り入れていく。

・少人数のため、学級での役割等が固定化される傾向にあるが、少人数のよさを生かし、個々の児童のよさや努力を積極的に認めることができるよう、積極的生徒指導の研修や非認知能力に関わる研修等を取り入れ、指導に生かしたい。

・教職員の児童へのかかわりについては、自由記述による追調査で、教職員がどのように捉えているかを把握し、改善を検討していきたい。

◆郷土愛(4)

<分析>

・昨年度と比較して調査結果に大きな変化はなかった。生活科や総合的な学習の時間を中心に、外部人材の協力を得て地域とつながりながら学習を進めていることが地域に関心をもつことにつながっている。

<改善方策>

・地域とのつながりを継続しながら、ふりかえりやお礼の手紙などにより、自分の成長に気づいたり感謝の気持ちをもったりする場面を大切にしていきたい。

また、総合的な学習の時間の活動内容を点検・改善することで活動の充実を図りたい。

◆あいさつ(5)

<分析>

・否定的回答1名(未実施1名)である。学期始めだけではなく、年間を通じて高学年(児童会)が中心となりあいさつ運動をするなど、あいさつの取組が定着している。年度当初はあいさつの声を出せなかった児童があいさつができるようになるなど、「声を出すこと」「表現すること」に重点を置いた日々の取組があいさつにつながっている。

<改善方策>

・次年度も声掛けや取組を継続していく。特に、(授業中、表彰での呼名などで)名前を呼ばれたら「はい」と返事することを意識し、声を出すことへの抵抗感を少なくしていきたい。

【金光竹小の重点について】

・「2 考え、表現する」「3 タブレット活用」「6 体力」「7 開かれた学校」については、組織的かつ継続的な取組が成果につながった。次年度も、児童の実態とめざす姿から具体的な取組を検討し、組織的・継続的に取り組んでいきたい。



学校関係者評価

【郷土愛】

・地域人材を招いての学習活動とつながりの良さを考えるための事後活動を大切にされていることが、「よくするために何かしてみたい」と思う子が多いことにつながっていると思う。

【自己肯定感・自己効力感】

・あいさつをしたり、自分の考えを言葉にしたりすることは、自己肯定感・効力感につながっている。

・友達のよいところを見つけるのもよいが、自己プレゼン能力を高めていくのもこれから自己肯定感を育むためには良いのではないだろうか。自分のよいところ見つけも併せて行っていくのはどうだろうか。

【その他】

・D評価については、努力も考慮して評価を考えてほしい。Bにしてもよいのではないかと思う。

・調査結果と実態に差があるも、実際には大きな変化がないとのことで、質問文の読み方や捉え方もあると思うので、積極的・消極的の回答と捉え、数字に一喜一憂されなくても良いと思う。

・少人数だからこそその丁寧さときめ細やかさを発揮されていると思います。他校の良い先行事例となるような取組を期待します。



来年度の重点・方針

金光学舎として、小中一貫教育を意識した教育活動を推進する。

下線:令和7年度からの変更点

- 1 わかりあう子……互いを認め合う思いやりの心の育成
(1) 友達のよさや自分のよさに気づく活動により、互いを認め合う思いやりの心を育成する。
(2) 児童が活躍する場、児童のがんばりを認める場を積極的につくることで、**自己肯定感・自己効力感**をもてるようにする。
- 2 かんがえる子……思考力、判断力、豊かな表現力の育成
(1) 基礎学力の定着を図り、主体的に学ぶ態度を育成する授業づくりにより、確かな学力の向上を図る。
(2) タブレットを積極的に活用し、主体的に考え、表現する力、**伝え合う力**を育成する。
- 3 たすけあう子……思いやりの心や勤労・奉仕の精神の育成
(1) 地域学習に積極的に取り組み、地域への関心を高め、**郷土を愛する心**を育成する。
(2) 「はい」という返事や進んで**あいさつ**をすることで、人とのつながりを大切にしようとする態度を育成する。
(3) 清掃活動、**環境美化**に主体的に取り組むことで、学校生活をよりよいものにしていこうとする態度を育成する。
- 4 けんこうな子……しなやかでたくましい心と体の育成
(1) 体育の授業、業間運動、交流遊び等で意欲的に体を動かすことで、楽しみながら体力向上を図る。
(2) 生活チェックカード等を活用し、家庭と連携しながら基本的生活習慣の確立を図る。
- 5 開かれた学校づくり
(1) 学校の意図や思いが伝わる情報発信をすることで、信頼される学校づくりに努める。
(2) 学校行事等を広報することで地域の方々に来校していただき、学校と地域のつながりを深める。
- 6 力を発揮できる教職員組織づくり
(1) 日々の取組や研修等により一人一人の資質向上を図るとともに、協働して課題を解決することで組織力の向上を図る。
(2) 特別な教育的支援についての理解を深め、児童の実態を適切に把握し、よりよい支援につなげる。
(3) 業務の効率化と教育の質の維持・向上の両面を意識することで、教育活動の充実を図る。